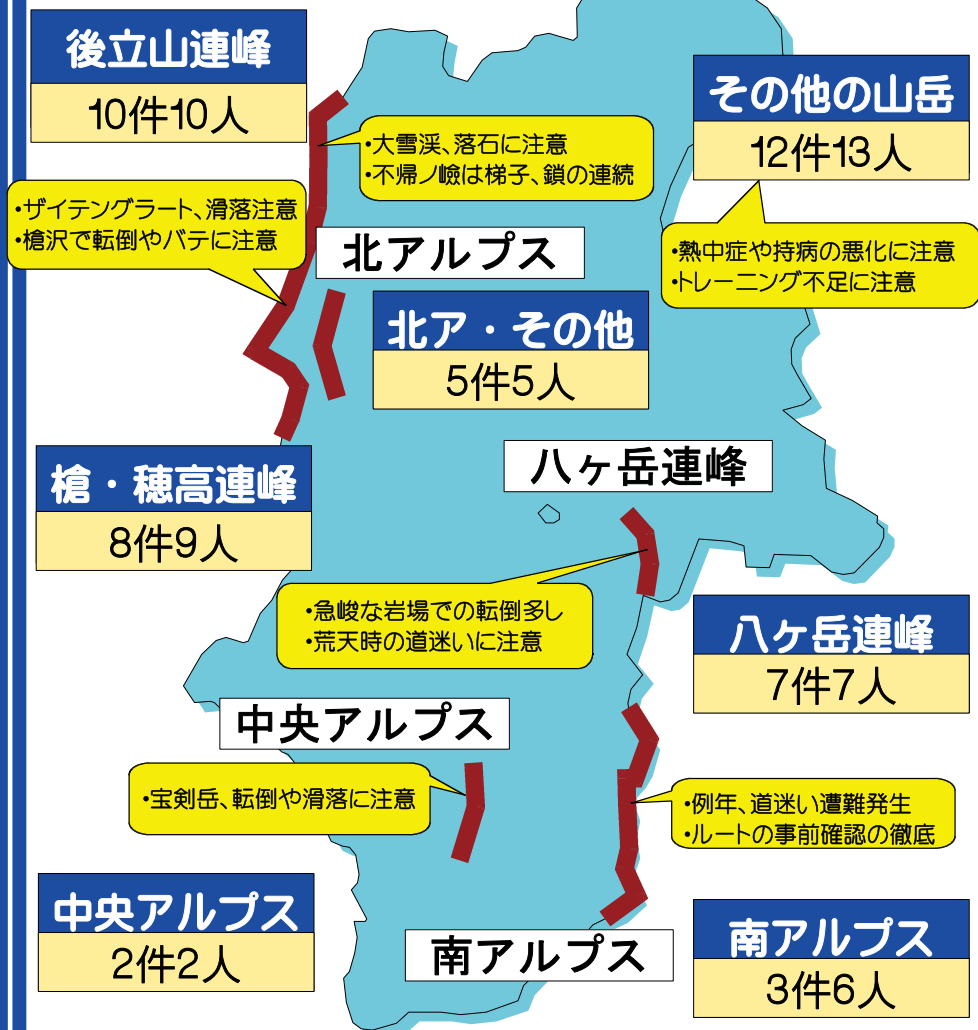


令和2年夏山遭難の発生状況



夏山（7月～8月）：年別遭難発生状況（過去5年）

区分 年別	遭難件数	遭難者数				
		死亡	行方不明	負傷	無事救助	計
H28	107	9	0	60	43	112
H29	101	17	1	57	33	108
H30	117	15	3	59	44	121
H31・R1	99	5	4	63	34	106
R2	47	4	0	26	22	52



夏山遭難の傾向



40、50代の遭難者多し!

遭難者の年齢は、例年、60代以上が多いが、令和2年中は、40、50代が4割以上。(52人中24人)加齢による体力や筋力、持久力の低下を認識し、普段から負荷を掛けたトレーニングをしましょう。また、登山の基本は「早出・早着」です。ゆとりある計画を!



男性登山者!要注意!

遭難者の性別では、男性が圧倒的多数。(52人中38人)
「自分の限界に挑戦」
「ピークハントの達成」
など、無理な登山は禁物です。

自身のレベルに見合った山域を選び、天候や体力の状況に合わせた柔軟な計画を立て、登山を楽しみましょう。



転・滑落、転倒の遭難多数!

転落・滑落、転倒の多くは下山中で、致命的な重大遭難に直結します。(47件中24件)

疲労の蓄積や集中力の低下が原因にあります。山頂は折り返し地点の認識を持ちましょう。また、急峻な山域では、ヘルメットの着用を!



北アルプス夏山常駐パトロール隊の活動

令和2年北アルプス夏山常駐パトロール隊 北部隊長 矢口拓
信州登山案内人を紹介します（個人詳細）



組織と活動内容

北アルプス夏山常駐パトロール隊は通称「常駐隊」と呼ばれる、長野県山岳遭難防止対策協会（協会長=阿部守一県知事）が設置する組織です。北部の私たちは夏山シーズン中、南は槍ヶ岳から北は新潟県境まで、裏銀座、後立山、白馬連峰に至る広い山域を活動エリアとして、稜線に常駐しながら遭難防止活動を展開し、万が一遭難が発生した場合は、長野県警の要請で、遭難救助活動に協力します。

山岳ガイドなどで各山域に精通した隊員十数人は、白馬、唐松、キレット、冷池、烏帽子の5班に分かれて、山小屋に寝泊まりしながら登山者からの相談を受けたり、日中は登山道をパトロールして危険箇所や道標の補修などにも取り組んだりします。



道標を背負って進む隊員

相談内容の傾向



登山者からの相談対応

常駐隊員は拠点とする山小屋やパトロールしている登山道で、登山者の皆さんからの相談を受けます。内容は多岐にわたり、道の状況や気候、登山ルートの注意点、登山技術のアドバイスなど。山域によって相談が違い、一概に傾向があるわけではありません。ときには、山の話から脱線して家庭や職場のお話をお聞きすることもあります。それだけ、心を許してお話しいただけていることをうれしく思います。

隊員は、登山中の安心と安全につながるように、同じ登山者として目線と一緒に、気軽に相談いただけるように努めています。



救助訓練風景

救助活動支援の傾向と対策

隊員は稜線に常駐していることから、救助現場に近く、要請を受けた事案では、初動を担うことが多くあります。いち早く現場の状況を

確認し、要救助者の状況を把握したうえで、応急処置などにあたり、ヘリコプターの誘導や悪天候時には背負い搬送も協力してきました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、従来通りの救助活動は困難な状況です。感染防止と登山者の安全を両立したいのですが、未だ暗中模索の状態です。

救助要請の内容は、千差万別ですが、疲労や水切れなどによる安易なものが増えたように感じます。まずはセルフレスキューができるか考えたうえで、通報するか迷って時間を費やし、守れる命が守れない、という事態も避けるため、しっかりとした判断力を持って、救助要請を行ってほしいと思います。

常駐隊としては、遭難ゼロを目標に、防止活動を継続していくことが、対策と考えています。

登山者へのお願い



山小屋での講話

北部常駐隊の面々は、登山者の皆さんと同じく山を愛する一人であり、共に山の自然環境と登山者の安全を両立していきたいと考えています。しっかりとした準備と確実な行動を心掛け、笑顔で下山してほしいです。何より、山を楽しんでいただきたい。常駐隊の活動が、その一助になれば幸いです。

山ではときに、「無理」をしなければならぬこともあります。しかし、「無茶」はしていただきたくないですね。「無理」と「無茶」は違うことを改めて考えてほしいです。万が一、遭難してしまったり、現場に遭遇したりしたときは、落ち着いて対処してください。自分たちでできる「自助」、登山者間で協力し合う「共助」、救助機

関による「公助」を、それぞれ最大限に生かして、何より命を優先にして行動してほしいと思います。

山の環境は、人が踏み入ることによって崩れていると感じます。一方、環境を保全するの人も。皆で山を守るという考えを持ってほしいです。特に、新型コロナウイルス感染拡大により、登山道整備を担う山小屋は厳しい運営状況で、登山道保全などは困難を極めています。

一人ひとり、できることは違うと思いますが、少しづつでも何か山のために手を差し伸べることが望まれているのではないのでしょうか。

常駐隊員を見かけたら

山を駆け回る、真っ黒に日焼けした隊員は、少し怖そうに見えるかもしれませんが、全員が心優しい“山ヤ”です。何か心配なこと、分からないことがあれば、気軽に声をかけていただきたいと思います。

※北アルプス夏山常駐パトロール隊は、令和3年に名称変更の予定です。

